

平成 30 年度神戸市人と猫との共生推進協議会 第 2 回定例会議録

1. 日 時

平成 30 年 10 月 26 日（金）14：00～16：00

2. 場 所

神戸市勤労会館 3 階 307 会議室（中央区雲井通 5 丁目 1-2）

3. 出席者

(1) 構成団体 11 団体の内 9 団体出席（規約第 6 条第 2 項の規定により会議成立）

(2) 出席者氏名 別紙出席者名簿のとおり（一般傍聴者 1 名）

4. 議 事

【報告事項】

(1) 事業部会開催状況

平成 30 年 4 月～10 月まで 7 回（月 1 回）開催し、月ごとの繁殖制限事業計画を協議し、支援申込、情報提供があった団体、地域の支援決定を行った。

(2) 野良猫の繁殖制限事業の進捗状況（9 月末現在）

平成 30 年度に新たに支援申込の件数は 9 月末時点では 57 件で、手術対象の猫は 530 匹であった。このほか、情報提供が 55 件（支援申込と重複 4 件）寄せられた。

これらの支援申込の内、事業部会で対策区域を定めて支援を行った件数は 34 件、手術対象の猫としては 337 匹であった。また、情報提供についても、3 件支援（1 件は支援申込と重複）を行った。

不妊去勢手術数は、9 月末までに雄 327 匹、雌 345 匹の合計 672 匹であった。この中には、29 年度に支援を行った 62 団体 370 匹も含まれている。今年度新たに支援をした団体だけだと 31 団体で 302 匹の手術数になる。

年間の手術数については、当初 1150 匹としていたが、(株)フェリシモの寄付等により 9 月に計画を変更し、300 匹増の 1450 匹に変更した。

(3) 猫の譲渡の推進事業の実施状況

協議会のホームページでは、11 団体と保護猫カフェ 4 施設の情報を提供している。

開催日前には、神戸市ネコ局公式 Facebook でも案内している。平成 29 年度は神戸市動物管理センターを除き、450 匹の猫が譲渡された。

(4) TNR 検証アンケート調査（暫定）結果

平成 29 年度に支援を行った団体に対し、今年度に入ってからアンケートを実施し

た。調査対象 202 件、回答 144 件（地域猫活動団体調査対象 95 件、回答 58 件、その他 107 件回答 86 件）

回答によると、未手術の猫の減少、猫の生息数の減少などで一定評価が得られた結果ではあるが、一方で今後も継続して TNR を実施する必要性もうかがえる結果であった。

(5) 寄付、募金

10 月 13 日（金）に三宮センター街東出入口で初めての街頭募金を実施した。神戸猫ネット、生活衛生課、協議会事務局の計 10 名が参加し、23,250 円の募金が集まった。

寄付については、個人 1 名と 3 団体からそれぞれあった。このほか 3 動物病院、1 店舗から募金が寄せられた。

募金、寄付の現在までの累計は 2,993,603 円であった。

高額寄付者の株式会社フェリシモ（292 万円寄付）に対し、中島会長から感謝状を贈呈した。

(5) TNR 実務者研修

- ・ 8 月 29 日「人獣共通感染症について」大阪府立大学笹井教授
- ・ 11 月 8 日「動物福祉の観点から正しい犬、猫の飼い方について」（予定）日本愛玩動物協会河合兵庫支所長

【協議事項】

(1) 人と猫との共生に関するガイドライン（案）について

事務局より、概要を説明し、意見交換を行った。11 月 15 日までに構成団体より意見を募集するとともに、市関係部局の意見なども踏まえ取りまとめた案で 1 月に生活衛生課がパブリックコメントの手続きを行う。

意見として、

- ・ 地域猫活動を熱心に取り組んでいるような人たちが理解、報われる社会になるようにしないといけない（Knots、猫ネット）。
- ・ 所有者がわかるという点でマイクロチップを強く推奨すべき（Knots）。
- ・ ガイドラインはボリュームがあるので、別に概要版も作ってほしい（商店街）。
- ・ 協議会事業がまだまだ市民に理解されていない。出前トークなどをおしてもっと PR すべき（婦人会）。

- ・猫の飼い主や野良猫の世話をする人たちの留意事項をもう少し具体的に明記してほしい（猫ネット）。
- ・関心のない人にも読んでほしい（神戸新聞、獣医師会）。
- ・野良猫をできるだけ地域猫にしていくようにしたい（愛玩動物協会）。

【連絡事項】

(1) 神戸市より

- ・9月20日の常任委員会で、議員から猫の殺処分が減少していることへの評価とガイドラインができたなら、神戸市としても普及啓発に努めてほしいとの意見があった。

(2) 出席者より

- ・一人暮らしの高齢者が猫を飼育することにより、健康に良い影響があることを踏まえ、医師会と協力して猫の譲渡（貸与）を獣医師会として検討しているので協議会としても協力してほしい（獣医師会）。